

横浜市立みなと赤十字病院



みなと赤十字病院の位置





横浜市立みなと赤十字病院



診療室の様子



スタッフ

常勤医4名

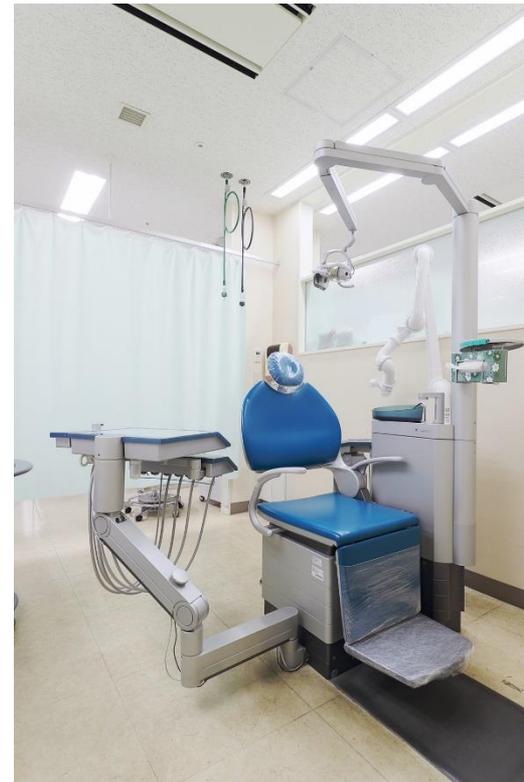
- 向山 仁 部長 補綴 専門医 指導医
- 中島 雄介 副部長 口腔外科専門医
- 田中 美佐子 歯科口腔外科
- 一般歯科 口腔外科担当医
- 研修歯科医 2名(当院採用)

非常勤医1名

- 摂食嚥下機能療法

歯科衛生士4名

- 助手1名 受付1名



日本の現状

後期高齢者の 人数

- 2005年：1100万人
- 2030年：2200万人

年間死亡者数

- 2014年：100万人（病院死：80%）
- 2044年：170万人

日本の病院 政策

- 病床は増やさない。
- 病院難民（入院できず孤独死）

日本の現状

- 近年 若死は減少。多くの人々が高齢期を迎え死に至る過程で虚弱な期間を経る。
- 病院中心の医療体制では、虚弱な高齢者は一定以上の医療が必要になった時は入院しかない。
 - 虚弱：廃用症候群、認知症、自立度の低下
- 国が目指す方向は 虚弱期であってもできる限り高齢者の自立を維持して生活の質も保てるように、病院完結型の医療から在宅の場に医療がおよぶ機能分化地域連携型システムへの移行です。

日本の現状

在宅の場に医療がおよぶ状況となる

- 歯科医療も例外ではありません。

歯科においては

- 診療所に来れる人が限られます。
- バリアフリーでないと通院が難しい。
- 訪問診療の必要性がいままで以上に増えています。
- 虚弱な患者さんであり、有病者です。

私たちが考えるあるべき研修

- 高齢化社会
 - 歯科疾患だけの患者さんは少ない
 - (いろいろな医科的既往があります)
 - いろいろな疾患をもっている患者さんの歯科治療が必要で医学知識は必須です。
 - 病院歯科では自分が担当する症例を通じて、医学的知識を日常臨床の中で習得できます。
 - 自分で勉強する努力は必要ですがサポートします。

みなと赤十字病院での研修の実際

- 実践的研修 見学は少ないです。
- 電子カルテに慣れるまでは、院内往診の口腔管理依頼症例からはじめます。これにより歯科診療を通じて医学的知識の習得します。
- 電子カルテに習熟したら、医療面接を行い、実践的に外来で患者を担当し、必要な症例には主治医として外来、入院診療を担当します。
- 昭和大学からも通年やたすき掛け研修歯科医として研修に来ています。

研修内容

口腔外科症例

抜歯、粘膜疾患、顎関節症、歯性感染症
→地域歯科からの紹介が多いです

医科症例の歯科治療

- 入院患者の口腔管理
 - 化学療法前
 - 肺炎
- う歯治療
- 義歯治療

研修医のある1日

- 8時30分 歯科ミーティング
外来受診患者の診察、処置
- 10時～ 手術室にて静脈内鎮静法下手術の術者
- ①ラインの確保
 - ②手術施行(智歯抜歯術が多い)
- 13時～ 外来受診患者の診察、処置
- 16時～ 病棟患者の往診
手術所見、入院サマリーの記載
手術の振り返り

研修歯科医の症例（顎骨嚢胞摘出術）



研修歯科医の症例(水平埋伏智歯)

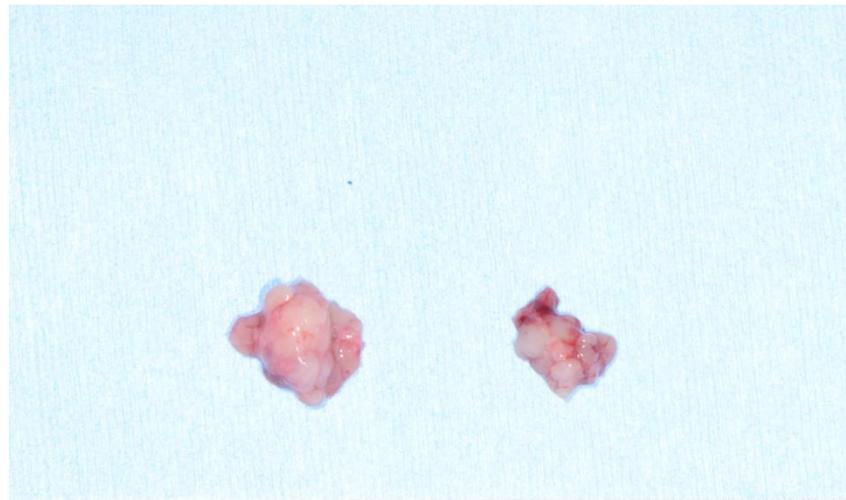
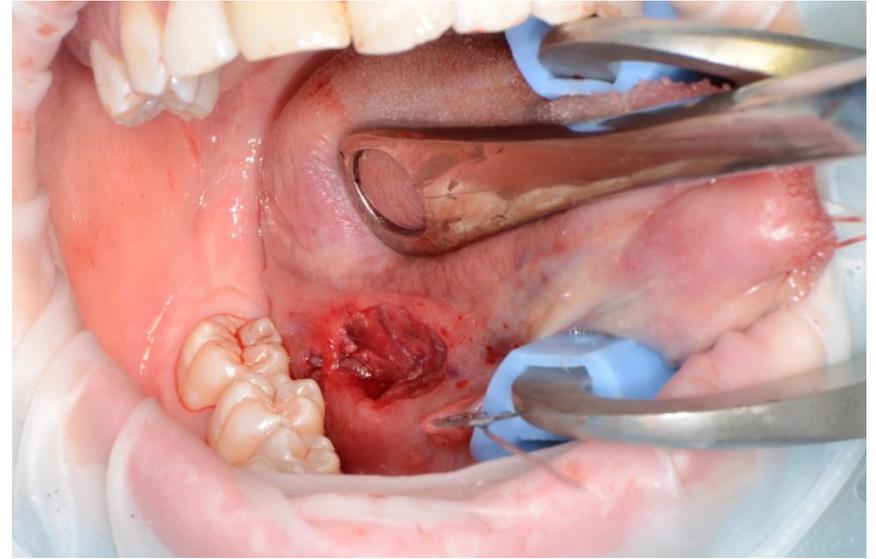


抜歯前



抜歯後

研修歯科医の症例(舌下部粘液嚢胞摘出)



総義歯もケースがあれば経験



みなと赤十字病院では

一生懸命、自分の限界まで、研修をしてみたい

座学とは全くことなる実践の世界に触れたい

高齢化社会を勉強したい

保存、補綴治療も可能です。

指導医はいつでも近くにいます。

みなんで歓迎します



皆さんをお待ちしています。

- 見学、研修内容などについては
横浜市立みなと赤十字病院臨床研修センター

kenshu@yokohama.jrc.or.jp

045-628-6100

まで問い合わせください。